

SDGs に農業から挑む



我妻飛鳥さん

我妻拓也さん

株式会社 EDEN

株式会社 EDEN

エデン

米沢市上新田にある『株式会社 EDEN』では、すいかをはじめとした様々な農作物の生産、販売を行っている。代表の我妻拓也さんは元サラリーマンで、農業とは無縁であったが、妻の飛鳥さんの実家で農作業を手伝ったところ、「こんなに面白い職業はない!」と感じ、勤めていた会社の倒産を機に本格的に農業を始め、令和2年に会社を立ち上げた。

社名である『EDEN』の由来は、自分たちの畑を楽園のような場所にしたという想いと、農作物を通してお客さんに笑顔伝えていきたい(笑伝)という二つの想いが込められている。

持続可能な農業のために

我妻さんは農業を行うにあたって、持続可能であることが大切だと考えており、EDENでは農作物の安全性の確保や生産工程の管理、働きやすい労働環境の整備などに取り組んでいる。

農作物の栽培では、化学肥料ではなく有機肥料をふんだんに使い、農薬の使用は最小限にとどめることで、環境にやさしく安心安全な作物づくりにこだわっている。また作業場では、作業手順書の整備や作業時の注意事項を掲示することにより工程の明確化や安全管理を行っているほか、定期的に社員との意見交換を行うことで、職場環境を改善している。



現場改善についての意見交換の様子

EDENのお米

EDENで育てているお米は夢ごちという品種だ。甘みが強くもちりとした食感で、冷めてもその特徴を味わうことができる。そんな夢ごちの栽培にあたっては、田植え直後に一回のみの農薬使用、肥料はほぼ有機肥料としている。これにより、通常の栽培と比べて農薬8割減、化学肥料が9割減を達成しており、令和4年度には山形県の特別栽培農産物[※]の認証も取得している。

※慣行栽培と比べて農薬や化学肥料の使用量を5割以下に抑えた農産物のこと

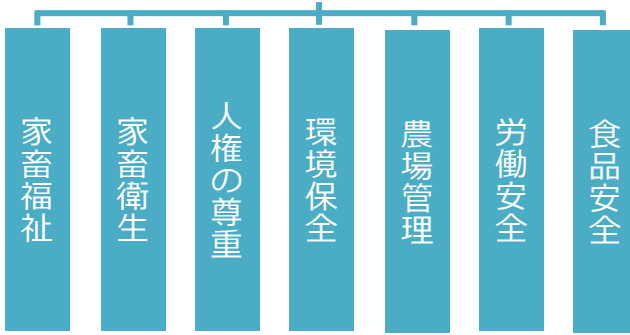


有機肥料で育てたお米



冬のEDENで採れた野菜

JGAPの7つの取り組み



GAPの取り組み

GAP (Good Agricultural Practices)とは持続可能な農業のために生産者が守るべき管理基準とその取り組みのこと。このうち、日本の農業の基準として定められたものがJGAPである。認証を取得した生産者は『持続可能な農業』のため日々取り組みを行っていることが証明される。

EDENでは職場環境の整備などにより、令和6年7月に主力商品のすいかをはじめアスパラガス、はくさいの3品目でJGAPの認証を取得している。

未来への挑戦を語ってくれた我妻さん

主力商品である「笑伝のすいか」は現在大田市場（東京都）に出荷していて、リピーターもついてきています。今後は「笑伝のすいか」の販路を全国的に拡大していきたいです。

農業は儲からないと言われることが多いですが、好きなように挑戦することができるので、やり方次第ではとても稼げる職業だと思っています。

楽しく・稼げる・可能性のある農業を未来のある若い世代に伝えていくことで「持続可能な農業」を広げたいです。



白菜の定植の様子



すいかを選別する我妻さん



笑伝のすいかロゴ



稲刈りの様子



Instagram



ホームページ

野菜ソムリエの資格を持つ妻の飛鳥さんは、ホームページで野菜をおいしく食べられるレシピや簡単に栄養バランスの良いレシピなど70種類以上のレシピを紹介している。



生ハムすいか